



第21号

平成23年7月

砂防ボランティア通信

特定非営利活動法人大阪府砂防ボランティア協会

東日本大震災の情報 <http://www.mlit.go.jp/river/sabo/>

丸山明理事長のあいさつ

砂防トピック

通常総会を開催

22年度の活動概要報告

地域調整委員会活動

危険斜面等の緊急診断

研修会

協会トピック

ごあいさつ

理事長 丸山 明



私が理事長を引き継いで早一年になりました。この間、会員の皆様方のご活躍により当協会の活動も順調に推移し、年度末を迎えようとしていた矢先の3月11日の昼下がり、東北地方を震源とするマグニチュード9.0の巨大地震が発生しました。そして多くの命が失われました。犠牲になられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

津波による被害が大き過ぎて目立った報道がされておきませんが、この地震により97件の土砂災害が発生し19名の犠牲者が出ております(6月20日現在)。「防災事業」に長く関わってきた私共にとっては大きな衝撃でした。「危機管理」は、ハード対策だけでは限界があり、想定以上を考えた啓発活動との組み合わせが必要であるということを改めて思い知ることとなりました。

近い将来発生するであろう「東海・東南海・南海地震」に対して、この地震を教訓に今後の街づくりや防災計画の「想定」をどう見直していくのか、早急な対応が待たれるところであります。

去る2月14日、大阪府河川協会、砂防協会および当協会主催で行った「防災講演会」に講師としてお招きした群馬大学の片田敏孝教授が、釜石市内の小中学校で数年前から地道に行ってきた防災教育と避難訓練が功を奏し、市内のほぼ100%の生徒・児童が助かったという「釜石の奇跡」がクローズアップされました。微力ではありますが、我々の活動がソフト対策の一環として、今後とも少しでも大阪の土砂災害防止のお役に立てるよう、引き続き真摯に取り組んでいく所存でございます。

さて、当協会は、平成8年9月に発足し、平成15年3月にNPO法人として登録、諸先輩の努力と大阪府の指導のおかげで多様な活動、成果を挙げてきました。この節目の年に「記念誌」として15年の活動の記録をまとめたいと思っています。今までの歩みを振り返り今後のあり方を思考できるものになればと思います。

わが協会も近年、会社を退職した、所謂「在宅会員」が増えております、と、次第にボランティア活動からも足が遠のくようであります。ただ、少しでも日常生活に緊張感を持ち続け、体力・気力を奮い立たせ、ボランティア活動で皆様が身につけている貴重な能力を発揮する、そのことが健康に生き続けるためにも必要なことではないでしょうか。

会員の皆さまの奮起・ご協力を期待いたします。

砂防トピック

- 大阪府都市整備部河川室 提供 -

土砂災害防災情報は「土砂災害の防災情報」で検索

URL <http://www.cds.osaka-bousai.net/sabou/Index.html>

市町村ごとの「大雨・洪水警報などの気象情報」、「台風、地震・津波情報」、「災害時の避難勧告・避難指示」、「土砂災害警戒情報」等を携帯電話メールで配信しています。

受信するには touroku@osaka-bousai.net に空メールを送信。

住民参加による地域版ハザードマップの作成：

昨年度、和泉市父鬼地区・大野地区・側川地区で地域住民とのワークショップ形式による地域版ハザードマップを作成しました。今年は全土木事務所管内において作成する予定です。引き続き、大阪府砂防ボランティア協会様のご協力よろしくお願い申し上げます。

携帯の登録メールの
QRコードはこちら



平成23年度通常総会を開催

5月18日(水)に通常総会を開催し、平成22年度事業報告・決算報告を承認し、平成23年度事業計画・予算を審議し決定しました。今年度の体制は昨年度に引き続き以下のとおりです。

執行体制

理事長	丸山 明
副理事長	大江 徹 藤本光大
理 事	吉田勝義（総務） 中田 智（広報） 北田隆久（財務） 上畑憲光（企画） 下清水則男（受託事業） 上島 保（地域調整）
監 事	眞鍋英夫 岡本冠一
ブロック長	（池田）上畑憲光 （茨木）東郷 茂 （枚方）下清水則男 （八尾）川口恵司 （富田林）吉田勝義 （鳳）田中拓夫 （岸和田）阿部捷歳

総会終了後 **本年度第1回の会員研修会**を開催しました。

- ・「平成22年度 土砂災害について」 講師：大阪府河川室主査 吉川泰司氏
- ・「東日本大震災の津波災害と大阪府の取り組みについて」 講師：大阪府危機管理室課長補佐 看舎邦亮氏

平成22年度 活動概要の報告

地域調整委員会活動

理事 上島 保

1. 平成22年度の活動報告

山津波（やまつなみ）などの土砂災害から府民の命を守るため、大阪府や市町村と連携して防災意識の向上・啓発普及に努めました。

土砂災害危険箇所の「パトロール」や「点検」（10回27人）、行政や地域住民等を対象とした「出前講座」（5回10人）、住民と一緒に「防災地図の作成」（13回28人）等、会員の啓発活動は延べ37回、参加人員128名となりました。

また、効果的な啓発活動を目指し実施した「プレゼンテーションのスキルUP研修」は、その後の出前講座等に大いに役立ち、その効果を十分に発揮しています。

会員の積極的なボランティア活動は府民からも好意的に受け止められており、所期の目標を達することができたと思っております。



（危険箇所パトロール風景）



（防災地図作成風景）



（出前講座風景）

2. 今年度の活動方針

多くの犠牲者を出した東日本大震災にあって、釜石市14校の児童全員(3,000人)が無事に逃げ延びた「釜石の奇跡」は危機意識の重要性を改めて証明する結果となりました。

大阪府民を土砂災害から守るため、“防災意識が生死をわける”を合言葉に、防災地図作成や出前講座等の啓発活動において“危機意識のすり込み”を心がけながら住民とのコミュニケーションの強化を図ってまいります。

“防災意識が生死をわける” 心のスイッチ → ON

【避難の3原則】 ●想定にとらわれない

●状況下において最善をつくす

●率先避難者になる

— 群馬大学大学院 片田敏孝教授のことは —

危険斜面等の緊急診断**理事 下清水 則男**

22年度調査は、今までになく箇所数も多く、夏から冬にわたり長期に及ぶものであり、担当した会員、調査員相互の緊密な連携、各自の健康管理などが必要であり、予定通りの工期で終了できたことは大きな実績になったと思われます。

1. 平成 22 年度 調査概要

調査箇所数： 大阪府下 576 箇所（能勢町から岬町に亘る急傾斜地崩壊危険箇所）

調査期間： H22年7月1日～平成22年12月17日

調査会員： 35名 延 180人日

雇用調査員： 12名 延1200人日

急傾斜地崩壊危険箇所： 傾斜度 30 度以上、高さ5m以上の急傾斜地で、人家(官公署、学校、病院等の公共的な施設のある場所を含む)に被害を及ぼすおそれがある場所です。

2. 調査実績 （ : 人家5戸以上 : 人家1～4戸 人家なし）

危険箇所 ランク	府下全体	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	合計
	896	360	359	128	—	—	—	77	174	236	1,334
	1,115	—	—	162	201	250	102	23	—	340	1,078
	346	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

3. 調査にあたっての感想

現地の調査にあたっては、長い階段あり、虫の元気な蒸し暑い藪の中ありでしたが、対象の人家の方々は土砂災害に関する意識が高い方も多く、斜面の状況や、「前兆現象に注意」という説明に熱心に耳を傾けていただきました。また、予定地以外の気になる斜面についての調査をその場で依頼されることもありました。大阪府の北から、和歌山県に近い中央構造線の区域まで、山間部から市街地の中の思わぬところに現れた斜面まで、実に多様な現地を見せていただきました。この調査・啓発によって、いつ発生するかわからない土砂災害の被害軽減に寄与できることを願っています。



住民に災害危険時の変化の把握、早めの避難を啓発し、裏山の斜面の状況を調査しました。

研 修 会・講 習 会**理事 上畑 憲光**

平成22年度は前年度の行事に加えて、本年2月に砂防協会・河川協会との共催の「水害・土砂災害に関する防災講演会」を開催しました。また、亀の瀬地すべり現地見学会や滋賀県で開催された土砂災害に関する講習会等に多くの会員が参加し、技術や知見の研鑽に努めました。

1. 砂防施設見学会

平成22年11月24日(水)、会員26名、大阪府関係者10名計36名の参加をえて、和歌山県の砂防施設見学会を開催しました。まず、田辺市秋津川町地内の中通谷川土砂災害(災害関連緊急砂防事業)を訪れました。田辺市で平成21年7月5日から7日午前にかけて400ミリを超える豪雨があり、中通谷川では上流部で山腹崩壊が発生し、上～中流部の渓床堆積物を侵食しながら土石流となって流下しました。土砂や流木により、橋梁等の閉塞や中学校の運動場や音楽室等校舎が浸水しました。また、見回り中の男性一人が流され死亡されたとのことです。見学当日は災害関連緊急砂防事業の砂防ダムがほぼ完成していました。

次の奇絶峡では自然の美しい景観を背景に全員で記念写真を撮り、白浜の「とれとれ市場」で昼食をとり、日高川護岸工（巨石積親水護岸）芦谷砂防パーク（ふるさと砂防事業）を見学して帰路に着きました。

朝早くから丸1日のきつい行程でしたが、あらためて土砂災害の恐ろしさを実感するとともに砂防事業の重要性を認識した次第です。意義のある見学会と会員の親睦を図ることができたことに対し、会員の皆様の御協力並びにお世話になった和歌山県・大阪府の担当者の方々に心よりお礼を申し上げます。



2. 砂防研修会

(1) 平成22年5月14日、「通常総会」に引き続き、会員研修会を開催しました。

「土砂災害のリスク認知と避難行動」 講師 神戸大学名誉教授 沖村孝氏

(2) 初めての企画として、平成23年2月14日「水害・土砂災害に関する防災講演会」を大阪府砂防協会・河川協会と共催で開催しました。

「転換期を迎えた日本の防災」(→写真)

講師 群馬大学大学院教授 片田敏孝氏

「土砂災害の歴史」

講師 全国治水砂防協会理事長 岡本正男氏



(3) 平成23年2月23日 土砂災害に関する講習会

(滋賀県大津市・近畿2府4県の砂防ボランティア協会共催)

(4) 平成23年3月11日 土砂災害に関する府内の現地研修会(貝塚市蕎原)

協会トピック 『15年誌(仮題)』の発行にご協力を

副理事長 藤本光大

大阪府砂防ボランティア協会は、平成7年1月の阪神淡路大震災を契機に、翌平成8年9月に有志により結成され、平成23年9月で満15歳を迎えます。

今年3月11日に起きた東日本大震災を契機として、先輩諸氏が築き上げてこられた協会の15年の足跡を振り返ることは、今後の啓発活動等の指針となり、土砂災害の未然防止に貢献する協会の発展に繋がるものとして意義あることと考えております。

「15年誌(仮題)」は、砂防ボランティアのあゆみ、事業活動・研修会などの実績、「寄せることば」等多彩な内容を掲載するとともに、会員、行政、関係団体向けに見やすい、分かりやすい内容とし、今年度末に完成させる予定です。皆様のご意見を協会事務所までお寄せください。

特定非営利活動法人 大阪府砂防ボランティア協会

〒541-0047 大阪市中央区淡路町 1-6-2 TNJ 大阪ビル6F

TEL/FAX 06-6208-1919

E-mail: osakasabovo@tea.ocn.ne.jp

<http://www18.ocn.ne.jp/~o-sabo/>

< “砂防ボランティア”・会員募集中 >

年齢、性別、経験（砂防に関する知識等）は問いません。

< 当協会の構成 >

正会員 89名

賛助会員

個人 6人

法人 9社

斜面判定士 62人

(平成23年5月現在)

● 当協会を支援いただいている企業賛助会員(アルファ順) ●

(株)浅沼組、(株)エヌイーエス、応用地質(株)、(株)奥村組、(株)竹中土木、
(株)浪速技研コンサルタント、日本工営(株)、日本国土開発(株)、(株)ニュージェック